

平成30年度 特色ある学校づくり推進事業報告書

『地域との連携 Project MASANORI を通して』

あま市立正則小学校

1 目的

本校は、明治からの学校で、近くには福島正則公生誕地の碑もあり、日頃から地域と深いつながりをもっている。地域の方に温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めており、地域の力は、本校になくてはならないものになっている。そこで、より地域との連携を図り、地域の力を生かすことで、児童の自己肯定感を高め、児童をより健やかに育てていきたいと考えている。

また、変化の激しい現代社会を生き抜く力を児童に身につけさせることは、今日の教育の重要な課題であると考え。状況に合わせた目標をもち、前向きに考え行動するには、集団を包み込む、豊かな心の醸成が必要であると考え。

2 内容

(1) 地域との連携

ア Project MASANORI

本校の近くには、福島正則公の生誕地や菊泉院という菩提寺がある。しかし、過去にいくつかの村が合併して正則村ができ、その学校として正則小学校と名付けられたこと、正則村という名前の由来は福島正則公の生誕地であったことなどは、ごく一部の児童にしか知られていなかった。せっかくこの学校にいるのだから、福島正則公のことを少しでも知って卒業して行ってもらいたい。

そこで、29年度よりあま市のキャラクターとしてあま市ものしりジュニア検定などで使われている、親しみやすい『ふく王くん』を活用して、福島正則公に関わり親しむ活動を学年に合わせ年間を通して行うことにした。今年はその2年目になる。



まさのりストリート



ふく王くんレリーフ



ふく王くんぬり絵

ふく王くんピザ

3年清洲城遠足

昨年度から継続した内容としては、職員室前の『まさのりストリート』の掲示、1年生を対象とした『ふく王くん塗り絵』、2年生を対象とした『ふく王くんピザ作り』、3年生の清洲城への遠足、5年生の『中抜十文字 花壇設計』などがある。他にも、ふく王くんの福笑い（ふく王笑い）を1年生が日頃お世話になっている見守り隊やおはなし会等の皆様を招待して行った感謝の会で行った。1年生児童が目隠しをした見

守り隊の方の手を引いて『ふく王笑い』の前に連れて行く姿が印象的だった。また、6年生が2月末に、旧美和町木田にある芳春軒店主を講師に招き、ふく王くんをモチーフにした、ふく王くんまんじゅうを作って和菓子作りを体験する予定である。

今年度は、それらを継続すると共に、新たな取り組みを工夫した。

4年生は、堀川夢広場に建立された福島正則公銅像見学と名古屋城への遠足を実施し、現在にまでつながる正則公の業績、ひいては伝統的な遺産に触れる機会とした。

6年生は、福島正則公について調べると共に、戦国時代の甲冑を身につけてみたり、狂言の指導を受けて実際に体験してみたり、体験を重視した活動を行った。特に狂言体験については、校内発表会を行うことができ、貴重な体験とすることができた。



甲冑を身につける代表児童



えいえい、オー！



ふく王くん饅頭



能管・小鼓の指導



狂言の演技指導



衣装合わせ(着付け)

イ 親子ふれあい学級

継続事業として、毎年6月に行っている「親子ふれあい学級」では、今年度は新たにどろ団子作りとバルーンアートを新設し、地域の講師14名、アシスタント38名を招いて14講座を設けた。講師の方の事前準備は入念で、講座にかける意気込みを感じることができた。また、どの講座も親子が真剣に取り組む姿が見られ、とてもほほえましく、親子で共通の目標に向かって活動する機会になっている。

ウ 農業体験学習

こちらも継続事業として毎年、全校児童が学校近くの畑でサツマイモの植付と収穫を地域の農業委員さんのご指導で体験させていただいている。土に触れる経験が少なくなってきた今日、サツマイモの苗植えや収穫は、とてもよい体験になっている。

3年生は、サツマイモ以外にも郷土の農作物として有名なネギ作りを農家の方を講師に招いて体験した。

3 評価と課題

地域に支えられている本校が地域と共にできることはないか。そんな思いに駆られて、Project MASANORIに取り組んできた。今や児童の口から「ふくしままきのり」という言葉が出る場面は珍しいものではなくなった。「福島正則公に親しむ」という、当初の目標は達成できていると考えている。

今後は、「どのような学習として成立させていくか」「どのように安定して継続実施できる内容にしていけるか」が課題であると考えている。